

「無理しなくていい」

北海道札幌視覚支援学校 中学部二年

中村 颯太

私は、四年生の時に学校に行けなくなりました。その原因は、大きなストレスがかかっていたことであつたと思います。

なぜ大きなストレスを抱えてしまったのか、私が考えた理由は、三つほどあり、一つ目は、我慢し過ぎることです。例えば自分のやりたいことや、欲しい物を相手に譲ったりすること、本当は、言いたいことを我慢して言わなかったりすることです。これにより、ストレスや責任感を感じ、不安になったり、辛くなってしまいます。

二つ目は、相手の言うことを聞きすぎてしまうことです。例えば「もうちょっと頑張りなさい」とか「もっと早くやりなさい」とか、もちろんやらなければならないこともあります。そのまますま受け入れるばかりだと自分の個性などがなくなってしまう。

そして最後は、自分を否定してしまうということです。具体的には、自分はこんな簡単なことも出来ないのかとか、みんな出来るのにどうして私だけ出来ないんだろうなど、自分に自信がなく悲観的になったりすることです。それらが私の考える無理をしてしまった

り、辛くなってしまう原因です。

そこで私はインターネットでその三つ以外にも、学校に行けなくなつてしまった人の例を調べてみました。例えば人間関係や不規則な生活、周囲の環境の変化などが挙げられます。その他にも色々ありましたが、この三つは特にその頃の自分の姿に当てはまってい

ると思いました。

実際に学校に行けなくなつてしまった時の個人的な対処法の一つは、家族や先生にそのことを打ち明けたり、次に、感動する動画やテレビなどを見て泣くことや自分を楽観的に見ることです。そして一番は共感してくれる相手が居ることです。私はそのような相手が居てくれると、この人は自分の味方だと感じるし、自分の嫌なこと、日々の悩み事などを打ち明けると勇気が出て、それを話すとスッキリして元気が出ます。私は、特にこれで安心出来ました。そして、これらのことは、学校や社会がダメだとか、そういうことを言いたいのは無く、皆さんに僕のように苦しくなつて欲しくないんです。

私は今無理をせず、必要な時に甘えて生きています。たまには自分に優しくしてください。好きなことをおもしろく楽しんで、好きな物を食べ、たくさん寝る。そうしたら少し楽になれて、相手のことを気にかける余裕もできると思います。

皆さんも辛いと思ったら、無理せずに友達に譲られたり、自分の言うことを聞いてもらい、本当にやりたい事をやる。

そう、皆さんも無理しなくていいのです。

「フロアバレーの旅」

北海道札幌視覚支援学校 小学部五年

加須屋 完太

ぼくは5月からフロアバレー部に入りました。入ったきっかけは、体育でフロアバレーをやって楽しいなと思いやってみることにしました。最初は少し不安でしたが、少しずつ慣れてきて先輩たちと話せるようになってきました。先輩はやさしくて困ったことがあっても聞いたらずく答えてくれます。

フロアバレーで楽しい事は、サーブ練習です。ボールを打ってコートギリギリに入るのが気持ちいいです。あと、マット打ちの練習でマットに当たったときはスカツとします。

フロアバレーには前衛と後衛の役割があります。前衛は、全盲の人や弱視の人がアイシェードをしてコートが一番前で戦います。後衛はコートの後ろで後ろにきたボールを受けたり、打ったりして戦います。ぼくは後衛をやっています。

ぼくがフロアバレーで大変な事は試合のルールを覚えることです。フロアバレーには色々なルールがあり細かく覚えていないです。例えば、前衛の人がネットをさわるとタッチネットとなり相手に1ポイント入ります。他にも難しいルールがたくさんあるので、これから少しずつ覚えていきたいです。

ぼくは夏休み、全国フロアバレーボール大会の試合をYouTubeで見ました。札幌は声も出ていてミスがあってもすぐにまきかえすいいプレイでした。つくばや三重のチームは強くてびっくりしました。優勝したつくばは前衛にパスがきたらすぐに打っていてすごかったです。対戦相手だった三重はボールを打つ速さが速かったです。

これからはフロアバレーの知しきをふやし、ボールを打つ速さを、速くしたいです。中学生になったらフロアバレーの試合に出てみたいです。ぼくが大きくなったら後輩が知らないことを教えてあげて、ちがうところがあったら教えてあげられるようになります。

「がくしゅうはっぴょうかい」

北海道函館盲学校 小学部五年

橋本 茜

十がつ二十五にちに もうがっこうで がくしゅうはっぴょうかいが ありました。さいしよに はじめのことを やりました。わたしは おおきなこえで 「じ」といいました。つぎに ケーキのはっぴょうを やりました。ケーキに フルーツを かざりました。わたしは パイナップルを かざりました。じょうずに できました。ハッピーバースデーを うたいました。わたしは リボンを やりました。たのしかったです。ままとおにいちやんが みにきまし

た。うれしかったです。

「家での私」

北海道旭川盲学校 中学部一年

窪田 悠希

私はお家で、9じ30分から10じ30分までべんきょうします。英語と数学と国語をがんばります。

あと、10じ30分から11じまでアイロンビーズをやります。食べたいおひるごはんは、やさしいためとかつ井とやきとりとたこやきとおくらとポテトサラダです。

ごごからお家であそびます。1じから7じまであそびます。ぱずるとうんどうとおえかきとボウリングをしてあそびます。

あと、お茶のみます。あまいものを食べます。

DVDをみます。絵本をよみます。かん字のれん習をします。「あいうえお」をおぼえます。工作でロボットを作ります。おり紙でいろいろなものを作ります。

図書かんにいきます。絵本をよみます。おもちゃであそびます。めいろとぬりえをします。おやつにフルーツをたべます。みかんとバナナといちごをたべます。ジュースのみます。そして、つかれてひるねをする私です。

「小論文」

北海道高等聾学校 三年

工藤 侑摩

現在、芽室町は北海道の中でも観光客数が比較的少ない地域の一つである。もし私が担当者で観光客を増やそうと考える時、どのような取り組みが必要になってくるのか。

まずはSNSを活用して芽室町の魅力を伝えることが大切だと考える。なぜなら、現代ではオンラインを通して情報を伝えることは簡単であり、情報拡散が円滑に運ぶことができるからだ。実際に私がスマホを使っていた時、岐阜県にある世界遺産の白川郷についての魅力や解説動画を偶然見つけ、そこに行きたくなり今年の夏に訪れた。このように偶然見つけた動画が観光地へ訪れるきっかけを作ることができることから、SNSを利用することが有効的だと考える。そして次に必要なことは、観光地へ訪れる人々に旅行で使う費用を促進することだ。なぜなら、旅行するための費用の確保が難しいと想定できるからである。実際に北海道は広大に広がる土地なのでその分移動に時間がかかるので、交通費や宿泊料にお金がかさんでしまう。その結果、観光地に訪れることができても満喫することが困難になってしまふことが考えられる。それを防ぐためには、交通費の一部負担をなくすことや一日乗り放題をサービスすることが必要だ。

また宿泊料では芽室町に訪れた人々に通常料金よりも安くなるように割引券を配布することも大切である。そうすれば、交通費や宿泊料にかかるお金が減り、その分旅行を満喫することができる。実際に家族で旅行する時は、その地域に訪れたら交通費が半額になるキャンペーンを見つけたことがあり、それを利用した経験がある。そして交通費の半額が浮いた分、食事に回すことができたので、十分に観光地を満喫することができた。

このように、芽室町へ訪れる人を増やすためには、旅行する人々にとって楽しい雰囲気を作ることが大切である。それを実行できるように先ほど述べた対策をできるように取り組みたいと私は思う。

生活単元学習「バス乗車の練習」

北海道室蘭聾学校 中学部二年

細越 美結

私は、生活単元学習で「バス乗車の練習」をしています。高等聾学校の学校説明会に行った時、

「高校生になったら、一人で高等聾学校へ通いたい！」

と思いました。たくさん勉強した中から、二つを紹介します。

一つ目は、バス料金の支払い方法です。一人でバスの乗車に挑戦しました。先生はバス停で待っていました。事前学習でたくさん練習をしたけど、緊張しました。降りる時、さいふと手帳、整理券を

もちながら両替をすると時間がかかりました。

「どうすればいいのだろう…。」

学校に戻ってきてから考えても

「難しい…。分からない…。めんどくさい…。」

と困りました。そこで担任からアドバイスをもらいました。

「バスカードを使えばスムーズに支払えると思うよ。」

私は、「なるほど！」と思いました。そして、次のバス乗車に向けて練習をしました。バスカードを使ってみると、他のお客さんにめいわくをかけませんでした。

二つ目は筆談です。店員さんに筆談メモ帳をいきなり真正面から見せたら、びっくりされました。

「えっ？なぜ？どうすればいいの？」

「難しい…。分からない…。めんどくさい…。」

と困りました。そこで担任からアドバイスをもらいました。

「筆談メモ帳を見せるときは、相手の顔より低いところで見せるといいよ。」

私は、「なるほど！」と思いました。そして、学校の先生と筆談の練習を何回もしました。そして当日は、バスの運転手さんと筆談でコミュニケーションができました。その他にも、ダイソーの店員、バスターミナルのスタッフ、警察にも筆談でコミュニケーションができました。

これからも一人でバスに乗ったり、分からないことを聞いたりできるように努力をしようと思いました。そして自信をもって高等聾

学校に行きたいです。

「思い出ができた修学旅行」

北海道室蘭壘学校 小学部六年

S・H

七月三日木曜日に、小学部五、六年と先生方と札幌へ修学旅行に行きました。

前日までは「早く札幌へ行きたい」と、思っていました。けれど、当日は「室蘭よりも遠い場所に行つて家族と離れたくない」という気持ちでいっぱいになって泣いてしまいました。母に見送ってもらった後も泣いていました。でも、列車が発車したときにRさんとMさんが一緒にいてくれたので、何だかワクワクしてきました。

新さっぽろに着いて、徒歩で科学館まで行きました。科学館が新しい展示物になっているところもあり、初めて見学しました。

私は「えっ変わったの」と、おどろきました。「何から見ようかな」と思っていたら、「おおい、Hさん来て」とR君に呼ばれました。私は、Rさんと一緒に体験できるから、呼んでくれたときはうれしかったです。

科学館で一番に残ったのは、「低温プレイグラウンド」でした。ここは、マイナス三十度が体感できる部屋でした。その部屋に入つてみると、とても寒いのに外が暑かったので、すずしく感じました。

私は「とてもいい気持ち」と、思いました。

科学館の見学が終わって、地下鉄に乗り南郷七丁目まで降りて階段で地上に出ようとしたときに、階段を踏み外してしまいました。そのとき、背中と腰が痛くなり、私はびっくりしてしまいました。急に起こったことだったので心臓もドキドキしました。怪我をしなくて良かったです。

市民防災センターに到着して、中に入つてみたら「わあ」と思いました。その理由は、館内に展示してあった消防車が大きいと思つたからです。

始めに地震体験をしました。みんなと地震を体験できる部屋に入りました。震度七で体験しましたが、すごく揺れたので、とても怖かったです。

もしも、今度本当に地震が起これたら困るので、家族と災害の備えをしておこうと強く思いました。

最後に、暴風体験をしました。これもみんな部屋に入りました。すごく強い風が吹き、MさんとR君が風よけで借りた眼鏡がずれて飛んでしまいました。その様子を見ていて何だか面白かったです。

修学旅行にみんなで行くことができ、とても楽しかったです。もし、またみんなで修学旅行に行けるとしたら、円山動物園に行つてみたいです。そして、ロープウェイにも乗ってみたいと思いました。

「アイヌと熊」

北海道函館聾学校 中学部一年

竹石 湊

ぼくは今、総合でアイヌのことを調べています。具体的には「アイヌ文化の継承」「アイヌの差別」「アイヌ文化と琉球文化の関係」の三つを中心に調べています。

調べているうちに、熊が人を襲うニュースを見るようになり、学習発表会の意見発表に向けて考えをまとめようと思いました。

最近のクマは畑を荒らしたり人間を襲ったりしています。

福島町では新聞配達の人が襲われて亡くなりました。知床では、登山中の人が襲われて亡くなりました。そして、ついに札幌市内の公園にも熊が出るようになりました。

ところで、そんな熊はアイヌとどのような関係だったのでしょうか？

アイヌの人は、自然や動物、全ての物に魂が宿っているという考え方をしています。

動物を狩ると「イオマンテ」という、動物の魂を神々の世界に送る儀式をします。それほどアイヌは自然や生き物を大切にしているのです。

しかし、熊が人を襲うようになってからは、熊の駆除が行われて

います。この熊の駆除についてアイヌはどう考えているのでしょうか？

そこで、一学期に道德の授業でお世話になったアイヌ相談員の竹内さんにお話を聞きました。すると竹内さんはこのように答えてくれました。

「アイヌの考えは、十人十色です。」と。

十人十色とは、十人いれば十通りの考え方があるという意味です。今回調べてみて、熊とアイヌの関係は深いことが分かりました。しかし、熊が人を襲うようになってからは、駆除が進められています。

もちろん熊の命も大切ですが、僕は人の命のことも考えてみました。

やはり、人の命のことを考えて熊の駆除は仕方がないと思います。ただし、駆除した後そのままにするのではなく、神送りまではいかないとしても、せめて火葬ぐらいはしたら良いと考えました。

そして、今までのように熊と人間が共存できる未来が来ることを望みます。

「楽しかったしぜん体けん学しゆう」

北海道函館聾学校 小学部二年

三浦 緋那

九月三日、金子のうじょうとはこだて牛にゆう工じょうに小学ぶ

ぜんいんで、しぜん体けん学しゅうに行きました。

金子のうじょうでは、牛にえさをあげたり、そうじをしたり、子牛にミルクをあげたり、トラクターにのったりしました。牛にえさをあげるとき、牛が、

「モーモー」

とないていたので、おなががすいたのかなと思いました。トラクターにのって牛のえさはこぶ体けんで、

「わたしは上手にそうじゅうできるかな」

と思ったけど、金子さんがいっしょにそうじゅうしてくれたので、上手にそうじゅうできました。

金子のうじょうですごくびっくりしたことがありました。それは、子牛にミルクをあげたときに、すう力がよくてびっくりしました。それと、牛のえさを見せてもらったとき、牛はとうもろこしを食べべているときいてびっくりしました。

つづいて、はこだて牛にゆう工じょうでは、牛にゆうパックに牛にゆうを入れるきかいを見ました。きかいがすばやくうごいていてすごかったです。そのあとソフトクリームを食べました。とてもうこうでおいしかったです。

はじめてのしぜん体けん学しゅうで、牛にゆうパックに牛にゆうを入れるきかいを見たのと、トラクター体けんが楽しかったです。つぎのしぜん体けん学しゅうはなにをするのかなとわくわくしました。

「言葉で世界を笑顔に」

北海道旭川聾学校 中学部三年

新庄 夏季

今はスマートフォンやタブレットなどのデバイスをほとんどの人が持つ時代になってきています。スマートフォンやタブレットでSNSを使って知りたい事を調べる事が出来て、さらに情報を発信することが出来ます。便利なのでSNS無しでは生きていけません。

しかし、SNSは、お互いのことを知らない状態で、簡単に悪口を書き込むことができてしまいます。また、自分が書いた言葉が誤解を招いてしまった時に、相手を傷つけてしまう事があります。その人のことが気に入らない、構って欲しいなどストレス発散のために誹謗中傷をしている人がいます。誹謗中傷とは、悪口を書き込むなどして、相手の評判や人格を傷つけることです。何万人もの人が、間違った正義を名乗って、言葉で人を叩いています。発言は自由だけど、ストレスが溜まっているからといって、相手を誹謗中傷してはいけません。他にも、いじめが発生したり、投稿した動画で家が特定されてストーカー被害に遭ったり、殺人事件に巻き込まれたり、相手を自殺に追い込んでしまう事があります。

私は、夏休みにオンラインゲームでフレンド達と遊んでいた時に、現実で会ったことがなく性別もわからない人から「キライ」「キモイ」

と言われました。その時、私は腹が立ちました。急に言われたので、私がおの人に何かしたのかと思ひ、「どうして？」と聞きましました。しかし、その人は無視しました。

悪口を言われた時や見た時に、心に見えない傷ができます。その傷は一生消えません。しかし、私も皆さんも、もしかしたら無意識に誰かを傷つけているかもしれません。インターネットに、「言葉は時に人の心を傷つける凶器」と書いてありました。まさにそれです。しかし、言葉は人を傷つけるためのものではなく、人を笑顔にする事が出来るためのものです。皆さんも、オンラインでもオフラインでも発言する前に一度立ち止まり、言われて嫌な気持ちになる言葉を使わず、相手を笑顔に出来る言葉を使いましょう。言葉で世界を幸せにしませんか！

「文化祭の反省」

北海道旭川聾学校 小学部六年

鈴木 乙羽

小学部最後の文化祭でしたが、楽しかったです。

ですが、二つ反省点があります。一つ目は、あまりにも緊張しすぎて、ところどころ声が小さかったり間違えたりしたこと。けれども、間違えていないふりをして、せりふを言いました。お母さんが字幕のモニターを見ていたらしく、家に帰った後、「間違えてたよ

ね！」と言われました。姉にも言われて、恥ずかしくなりました。来年からは寸劇ですが、寸劇でせりふを間違えないように気をつけたいな、と思いました。

二つ目は、「おめでどうの歌」の時に、ところどころずれていたことです。来年のよさこいでは、気をつけたいなと思いました。なぜそう思ったかという、一人だけずれていたらかっこよくない、恥ずかしいと思うからです。来年からは、よさこいと寸劇をします。今までみたいに、始めからある昔話や物語ではありません。だから、自分たちでどのようにしたらいい舞台になるかを考えながら、よさこいや寸劇の練習に取り組んでいきたいです。

今年の中学部の演目を見て、人数が少ないのにすごくいいよさこいと寸劇だと感動しました。だから、来年は今年以上に、お客さんや保護者の皆様が感動できる劇にしたいな、と思いました。そのため私の来年への意気込みは、迫力のある文化祭を目指し、中学部の伝統であるよさこいを披露し、今年の先輩を超えられるように、全力で頑張ることです。

「自然の中で楽しんだ宿泊学習」

北海道帯広聾学校 中学部三年

山口 夕空

一泊二日で宿泊学習に行ってきました。泊まった施設は、ネイパ

ル足寄です。

宿泊学習で大変楽しかったことは、一日目は、まず、ウツディベルで昼食を食べたことです。特に、肉汁が口の中に広がり、トロトロとしていて、おいしかったです。

次はサイクリングをしたことです。下り坂を走る時は、風がとても気持ち良かったのもう一回やりたいと思いました。

最後は、野外炊飯をしたことです。カレーのルーは、自分たちで作ったので、愛情が入ったカレーライスができました。

二日目で楽しかったことは、一つ目は陶芸です。特に粘土を触る時に、水を足す前は、硬い感覚でしたが、水を足した後は、扱いやすくなっていました。

その中で一番楽しかったことは、筒状の型の周りに粘土を巻きつけるところです。僕はネイパルの職員の方に、「センスがありますね。」と言われました。

次にネイパルの帰り道の途中で里見が丘公園の足湯に行ってきました。足湯に入ってみて、足に溜まっていた疲れが取れるくらい気持ち良かったです。

宿泊学習で大変疲れたことはサイクリングと野外炊飯です。

サイクリングの何が苦しいかというと、ペダルに体重をかけて坂を上ることでした。上る時、僕は家に帰りたいと涙を流しそうになりました。

野外炊飯で大変だったことは、火起こしの時に、火打ち石を使いますが二十分以上おわりに火が着かなかったことです。しかし生徒同

士で協力し合ったこともありました。野外炊飯のときに一緒にご飯を炊いたり、ルー作りでは食材を切って団扇を使って一緒に火を大きくしたりすることができ、思い出に残っています。

宿泊学習で学んだことで、これからいかしたいことは、料理するときももちろんですが、友達や先生と協力することが大切だと思います。

「たのしかったがくしゅうはつびょうかい」

北海道帯広聾学校 小学部一年

三歩一颯

10がつ18にち、がつこうのたいいくかんで、がくしゅうはつびょうかいをしました。ぼくは、げきで「スイミー」をしました。

おこなわとびをしました。20かいとびたかったけど、14かいでした。ざんねんでした。

いせえびのやくをしました。Yちゃんとぼくは、じゃんけんをしました。ぼくは、かってよろこぶえんぎをしました。おもしろかったです。

うなぎのやくをSちゃんといっしょにしました。うなぎが、Yちゃんにあたまをなでられて、びっくりするえんぎをしました。すばらしいえんぎができたとおもいました。

みんなでおおきなさかなになって、まぐろとたたかいました。みんなでまぐろをおいだして、「やったー!!」といいました。たのしかったです。

おとうさん、おかあさん、おじいさん、おばあさんに「えんぎがじょうず、すばらしい」といわれました。ぼくは、うれしかったです。

「体育大会について」

北海道雨竜高等養護学校 二年

佐々木 玲羅

私は玉入れの一回目に出ました。一回目は七十九個、二回目七十八個でした。合計百五十七個で一位でした。

私は背が低い分投げる人が投げやすいところに玉を集めるということに心がけました。去年よりは上手く動けたし、仲間と声を掛け合えたので、個数も多かったし一位になりました。

総練習の時、玉入れは二位でした。その後は誰が玉を集めるか、玉を投げるか、動画を見て良かったところ改善できるところを反省しつつ話し合いました。そして担当の先生に練習最後の日に「一回目・二回目一回ずつの一セットやらせてください。」とみんなで頼み込んでさせてもらいました。そしてみんなの気持ちが一つになったのか最後の最後に百十七個入れられました。いままで一番多かった個数でした。そのおかげでこのままみんなの気持ちが一つになってい

れば明日は安心だねと話し合い、当日も上手いきました！

練習の時は少し球が散ってしまつて、投げ方を上手くしたいと思いい、担当の先生そしてグループの仲間と相談したら、「こっち玉少ない」とか「こっち玉少ないからちようだい」とか声をかけてもらえるようになったので、相談して良かったし仲間が協力してくれて助かりました。

本番では、サイコロの種目で仲間が一位を取った時は「おめでとう！」と思うだけでしたが、自分が出た種目で一位だった時の達成感の違いがありました。どの競技も沢山練習したり、仲間同士励まし合ったり、応援しあったり、協力できたから、玉入れもサイコロ、千、千五百メートル走も一位を取れたと思います。そして一位を取れたのは練習を頑張つてしてきた成果、当日の応援だったのかなと感じました。

そして何よりサイコロの種目の時、放送で後輩と協力して盛り上げられて、緊張はしましたが、先生に頼まれた時「やります」と言ったことで、後悔しない実況ができたと思えました。放送の後、「放送聞き取りやすかったしうまかったね！」というんな先生に言ってもらえて、今後の放送も聴き手の人が楽しめる、聴きやすい放送を心がけようと思いました。

「初めての登下校」

北海道白樺高等養護学校 一年

佐藤 菜々美

やはり初登校というものは、名に初の字がある通り全てが新鮮であるため深く記憶に残っている。

登校初日のいつもより遥かに早い朝、眠い目をこすりながら昨日の入学式を繰り返し思い出し出していた。

「明日から登校だね。」

とかけられた言葉にまだ実感が湧かなかった。

駅まで送ってくれた父に手をふりながら父の車から降り、まだ慣れない駅にきよろきよろとあたりを見回しながらバス停まで歩いた。バスが来るまでの時間は約十分ほどであったろうか、緊張のあまり時間がとても早く感じた。

想像していたよりも早くついたバスに乗り、空いていた椅子に座った。

ずいぶんとバスに乗る練習を重ねたというのに、無事にバスに乗れたことに大きく安心した。

それからあつという間の数時間を過ごし、帰りのホームルームを終えた後、バス停までの坂を登りバスが来るのを待った。

その時はまだ話せる人もおらず、一年生も私以外ほとんどいなかった。一人で忙しい時間を過ごしたことを覚えている。

バスの乗り継ぎをしたあと、自分の地元が見えたときはとても安心した。

今は日常になった登下校だが、最初の頃の気持ちを忘れず大切にしたいと思う。

「心の天気」

北海道新篠津高等養護学校 二年

松本 有里奈

ある日曜日の話。ばあちゃんに会った。すごく苦しそうに私の方を見て、「有里奈」と言った。私はその時思った。もう少しでばあちゃんと会えなくなると。ばあちゃんが家にいたとき、その頃はすごく嫌いだっただ。今思えば、何があってもそばにいてくれたばあちゃん。ばあちゃんは物心ついたときから認知症になっていた。昔は二人になったときよく戦争の話をしてくれた。自分で経験した戦争だけあって、その言葉にはすごい思いがこもっていた。私がどんな姿になっても否定をしなかったばあちゃん。

こう思っているさなかに火曜日になった。その頃私は寄宿舎にいた。ばあちゃんのことをあまり考えないで、みんなという話をして

していた。寝る時間になって寝たと思ったそのとき、寄宿舎の先生に起こされた。そのとき、どうして起こされたのかよく分からなかった。そこで寄宿舎の先生に「制服を持って帰らないと。」と言われた。その瞬間にばあちゃんのことだと気付いた。まだ信じたくない自分がいた。食堂で母を待つことになった。その間に寄宿舎の先生がいろいろな話をしてくれた。そのときも信じたくない思いがあった。母が来て、ばあちゃんに会いに行つた。そこで、信じたくない思いが悲しみ変わった。

いろいろ終わったその日、ある人から母に電話がかかってきた。その人は、私にこんなことを言った。

「大丈夫、明日無理して学校に来なくていいからね。」と私は今まで言われたかった言葉をその人は簡単に言っていた。すごく涙をこらえながら聞いていた。どん底だった気持ちに希望の光をともしてくれた。そこから希望の光を見ながら前に進むことができた。

それがきっかけとなり、私にとって憧れであり、一番心を許す存在になっている。最近その人の笑顔を見ていない。その人の笑顔と言葉一つ一つが希望の光だったのだと今になって実感している。でも希望の光はもう消えていると思う。願っても叶わない思いを言葉にもせず、心が晴れていたあの頃と違い、雨か曇りが続く毎日に戻っていく。

「現場実習」紅と白の記憶」

北海道小樽高等支援学校 三年

小泉 暁虎

九月十七日、仕事が終わり、事業所で帰る準備をしていたら、キツチンの人から「豚ひき肉をもっていきな」と言われ、ありがたく受け取ろうとしたら、思ったより量が多い冷凍されたブロック状の豚ひき肉がドンツと出てきて、少しびっくりしました。

九月二十二日、この日も仕事が終わり、事業所で帰る準備をしていたら、キツチンの人から「グラムチャウダーを持っていきな」と言われ、「グラムチャウダーも作ってるんだなあ」と思いつつ、ありがたく受け取ろうとしたら思ったより量が多く、四、五人分くらいの量で出てきて、少しびっくりしました。冷凍庫でカチカチに凍っていたので、翌日に解凍してから鍋で温めて食べました。三杯目からはもうきつかったです。

九月二十六日、機械を使って玉ねぎをスライスし、終わった時に片付けようとした時に突然、機械が台からガタツとずり落ちそうになり、急いで受け止めようとしたら、左中指が刃に触れてしまい、スパッと切ってしまいました。ケガをしたことを伝えるとすぐに病院に連れていってもらい、受付や会計などご迷惑をかけてしまい、職場の皆さんには申し訳ないことをしてしまったなと思いました。

これを機に、次からは油断せず、最後まで気を付けて作業をしていこうと心に決めました。

最後に現場実習を通して、学校でもどのような作業でも矢で鹿を射るように集中し、豆腐をまっすぐに綺麗に切れ目を入れるような丁寧さと、寿司職人がササツと寿司を握るような手早さを意識して頑張りたいです。

「おいしかった、生落花生」

北海道伊達高等養護学校 一年

佐藤 晴輝

実は、今まで僕は生落花生を茹でて食べたことがありませんでした。家族が節分のときにスーパーマーケットで落花生を買ってきてくれて、鬼になりきった僕に妹や弟が投げてぶつけてきた後、歳の数だけ食べていました。おいしいと思っただけ食べていました。

そして、高校生になって初めての10月、仲間と収穫した「生落花生」。販売するために味がわかった方が良く、味見させてくれました。鍋に水を入れ、塩を入れ、少量の生落花生を入れて茹でると40分。からをむいて食べてみると、塩味が絶妙で、とても美味しかったです。

あの味を思い出しながら、11月14日にある学校祭の即売会で、たくさん売りたいです。とても楽しみです。

「函館高等支援学校に入学して」

北海道函館高等支援学校 一年

成田 茉穂

私は、函館高等支援学校に入学して、たくさんを経験しました。特に印象に残っていることは二つあります。

一つ目は、バス通学です。私は高校生活が始まるまでバスを利用したことが少なかったのですが、最初の頃はとても不安でした。また、中学校の時よりも早く起きて身じたくをして家を出なければいけません。それに、小中学校の時よりも歩く距離が長くなったので大変でした。バスを上手に利用できるようになれば、いろいろな場所に行くことができるようになると思います。もし、時間があつたら休日にバスを一人で利用してみたいです。

二つ目は、職業の授業です。職業の授業で主に経験したことは、カキの貝割りです。この作業は、かなづちを使ってカキを割る作業です。そして、割ったカキは、にわたりのエサになります。実際に行かせていただくと、気づいたことがあります。それはカキを割る時の力加減です。この調が離しかったです。強すぎたことはありませんでしたが、弱すぎてカキが割れにくかったことがありました。また、割ったカキが想像以上に床に飛び散っていたので、とてもびびくりしました。初めてカキの貝割りを行い難しかったですが、計の時は

達成感も感じました。これからの職業の授業で、良い力加減を知り、
たくさんの力キを割りたいです。

「一学期がんばったこと」

北海道小平高等養護学校 一年

竹内 倫子

私が一学期がんばったことは、四つあります。

一つ目は、体力づくりです。校外ランニングでは、走ったり歩いたりしました。初めは二十一分で走っていました。でも、ちよつとずつ練習をして、止まらず走れるようになり、タイムが十六分になって、嬉しかったです。

二つ目は、ペースランニングです。初めは、自分のペースで走っていました。歩くことも多かったけど、だんだん歩いたりできるようになり、今では歩かないで走れるようになって、同じペースで走れるようになったので、頑張りました。

三つ目は、道の駅販売会です。歩くのが遅くなり次の授業におくられてしまったけれど、
初めて歩くことができ、嬉しかったです。

四つ目は、海浜学習です。みんなと最後まで、おくれないうで歩くことができ、体力がついたなと思いました。

「三年間で一番思い出に残った豊明祭」

市立札幌豊明高等支援学校 三年

浅井 結衣

私の一番の思い出は三年生の時の豊明祭です。私はステージでバンドをしました。バンドは緊張しましたが、楽しかったから一番の思い出だと思います。

豊明祭で私はバンドのキーボードを担当しました。豊明祭までに弾けるかどうか不安でしたが、練習をするにつれてできるようになりました。バンドグループは、演技をする部分もありました。私はあまり身振り手振りをつけて演技をするのが得意ではなく、家に帰ってからセリフや身振り手振りの練習をしました。バンドグループは、キーボードのほかにドラム、ベース、ギターの楽器がありました。豊明祭まであと少しとなり、演奏や演技がミスなくできるか、とても不安でしたが、前日までに演奏も演技も何とか仕上げることができました。

ついに豊明祭当日。バンドの出番がきました。曲はフレデリックの「オドループ」を披露しました。曲も演技も大成功で終わりましたが、慣れないセリフも間違えずに言うことができました。学生生活最後の豊明祭を悔いなく楽しくできて、とても良かったと思います。

た。高等支援学校での生活も残りわずかとなりましたが、友達と一緒に忘れられない思い出をたくさんつくりたいと思います。

「学校祭」

北海道夕張高等養護学校 一年

中村 琉聖

十月二十五日土曜日に、学校祭がありました。

学年でおばけやしきをやりました。こわかったです。

全校企画でモルックをがんばりました。たのしかったです。

らいねんの学校祭は、ダンスとお笑いをやりたいです。

「宿泊研修の思い出」

北海道札幌養護学校白桜高等学園 二年

橘 志旺

僕たちは、二年生の宿泊研修がありました。僕が一番楽しかった思い出は、ウポポイです。僕はアイヌの衣装を見たり、チセの家を体験したり、輪投げ遊びをしたりしました。

僕は、バスでバスツアーの司会をしました。僕は、カツカレーがおいしかったです。みんなで、クマ牧場に行きました。僕は、エサをあげたり、ロープウェイにのったりしました。それから、石水亭に泊まりました。僕は温泉に入ったり、夕食がおいしかったです。それから、

お買い物をしたり、友達と一緒に英語NGゲームをやったりしました。

二日目は、朝食がおいしかったです。それから、みんなで地獄谷へ行きました。とてもおいがすごかったです。その後は、みんなでマリンパークへ行きました。僕は、魚を見たりタッチプールを体験したり、買い物をしたりしました。後は、みんなで白老たまごの里マザーズへ行きました。僕は、カスタードシュークリームがとてもおいしかったです。

ここに集まってくれたみんなのおかげで、僕たちは最高の宿泊研修を過ごすことができました。

北海道岩見沢高等養護学校 三年

成田 柁音

チャレンジ精神があり、積極的に物事に取り組める。これは私の長所だといえる。「雲外蒼天」。これは「今ある苦難も努力をし、乗り越えた先に快い青空が望める」という意味で、自分のモットーだ。

高校生活では初めてのことを多く経験したが、生徒会活動がその一つだ。生徒会役員になった最初の頃は、複数の意見をまとめて形にすることが自分にはできないと思っていた。だが経験を積むごとに出来るようになり、現在は集まりなどで中心となって、その場に応じた行動をとるように心がけている。日々の生活での小さなこと

から、資格取得のための勉強などの人生において大切なものとなることまで、様々な経験を積んでからはどんなことにも挑戦してみる事が大切だと強く感じている。

これからも自分の長所をさらに伸ばしていきたい。今まで経験したことのないものに挑戦できるチャンスに巡り会えた際には、自分からやっっていく。人前に出て何かを行うようなことがあったときには、中心となれるように周りの状況をよく見て行動したいと思っている。

「夏休みの思い出」

北海道真駒内養護学校 中学部三年

M・Y

家族全員で旅行に行きました。2時間くらいで「たっちゃん食堂」に着きました。お昼は、マグロ丼を食べました。おいしかったです。ウポポイに行きたかったけど、弟が早くホテルに行きたがったので建物だけ見ました。ホテルに着いてすぐ温泉に入りました。夕食では、いろいろあった中で一番おいしかったのは、ラーメンとステーキでした。ごはんを食べ終わった後は、野球を見ながらゲームをして過ごしました。帰り道は、とうもろこしを買って帰りました。とても楽しい夏休みでした。

「じっしゅうせいさんのおもいで」

北海道真駒内養護学校 小学部二年

砂原 大翔

図こうがたのしかったです。

とんとんとんとんするところがじょうずでした。

パソコンうつすのが上手でした。

発表すごくよかったです。

どんぐりが本物のようです。

またあいたいです。

「ぼくのお気に入りの本」

北海道手稲養護学校 小学部二年

林 恭平

ぼくのお気に入りの本は、さえ木かずまさんの「花火のえほん」です。

この本には、花火が出てきます。いろんな花火が、うつつています。新がたけんの、せかい一大きい花火が、おもしろいです。

ぜひ、読んでみてください。

「ぺんだまって何？」

北海道拓北養護学校 中学部一年

大本 朝日

ぺんだまとは、鉛筆を正しく持つための道具である。構造は、玉に円柱（グリップ）がついている。玉の真ん中に穴が開いていて、そこに鉛筆を通す。鉛筆が動かないように、ネジで固定する。

玉の部分を親指と人差し指で持ち、残りの指で円柱の部分を握る。このように、正しい持ち方になりやすいように工夫されている。

グリップは取り外しができる。玉の大きさは、子どもから大人まで選べるように三種類ある。穴の大きさも、二種類ある。

材料は木でできている。木は硬くて滑りづらい。そして適度に重い。だから、持ちやすいのだ。

グリップは、中指、薬指、小指で握りやすい長さだ。

使い始めて一年。最初の頃は慣れるために一生懸命練習した。今ではすっかり慣れて使えるようになり、前に使っていた補助具には戻れない。



「けんがくりよ」

北海道函館養護学校 中学部二年

伊藤 碧杜

ぼくは、あおもりへけんがくりよこうにいきました。ねぶたのいえわらつせでカレーライスを食べました。おいしかったです。

「前期を振り返って」

市立札幌山の手支援学校 高等部一年

入江 都子

みなさん前期はどうでしたか。楽しく過ごせましたか？毎日の授業も頑張りましたか？

私は、前期に二つのことを頑張りました。

一つ目は、校外学習です。クボタアグリフロントに行つて農業経営シミュレーションゲームをしました。そのゲームでは、お米を育てました。自分は、育てたことはなかったので農家の人は機械を使つてたくさん作つてすごいなあと思いました。学校に戻つてからお米の出来方をスライドにまとめました。お米ができるまで何日

もかかっていて農家さんの大変さを知ることが出来ました。

二つ目は、学校祭です。初めて山の手学校祭に参加してみても、小学部は勉強のクイズや歌がとても上手で、中学部は校外学習について上手に動画にまとめていました。みんな楽しそうにやっていて自分も楽しむことが出来ました。私は、「星に願いを」のトーンチャイムと歌を頑張りました。当日は、遠くの人に聞こえるように意識しました。

後期は、校内実習を頑張りたいです。礼儀やマナーを意識して取り組んでいこうと思います。明日から冬休みに入ります。私は規則正しい生活を意識して体調を整えていこうと思います。みなさんも体調に気をつけて充実した冬休みにしてください。